

## 東京電力(株)福島第一原子力発電所3号機における高経年化対策の 取組状況の確認結果について(概要)

平成18年7月28日  
福 島 県

県は、東京電力(株)福島第一原子力発電所3号機(以下、「当該機」という。)が、営業運転開始後30年を迎え、高経年化技術評価報告書等を取りまとめたことを機に、今後懸念される施設の経年劣化に対して、日常の不適合事象等への対応を含め、東京電力株式会社(以下「事業者」という。)における高経年化対策の取組状況について、立地町とともに安全確保協定に基づく立入調査等を行い確認してきたが、その結果の概要は、以下のとおりであり、事業者においては、重要機器・構造物について今後とも細心の注意をもって点検・保守を実施していくとともに、近年のトラブル事例を踏まえた保守活動の充実・強化を図っていくことが求められる。

### (1) 重要機器・構造物についての適切な点検・保守の実施

原子炉圧力容器、炉内構造物健全性の適切な確認

原子炉圧力容器については、目視点検箇所への追加の検討等、今後とも可能な限り細心の注意を払い、健全性の確認に万全を期すこと。

また、当該機のシュラウドサポートは過去の補修記録が保存されておらず、信頼性の観点から、早期に点検する等、点検時期を検討すること。

低炭素ステンレス鋼配管の応力腐食割れに対する慎重な対応

原子炉再循環系の低炭素ステンレス鋼配管の応力腐食割れについては、引き続き、安全・安心の確保を最優先にした点検・補修を行う等慎重に対応すること。

配管肉厚管理における点検結果や最新の知見の的確な反映

点検結果や最新の知見を点検計画に迅速かつ的確に反映させ、さらなる改善を図ること。

### (2) トラブル事例を踏まえた保守活動の充実・強化

設備更新に伴う新旧機器のインターフェイスの考慮等設計管理の充実・強化  
初期のプラントであり、保守性が十分考慮されていない設計のため、新旧機器のインターフェイスの問題も含め、設計管理に慎重かつ確実に取り組むこと。

未点検の箇所等の点検等、日常保守活動の充実・強化

未点検箇所等で不適合事象が発生したものや日常、十分確認可能であったが、不具合を見落としていた事例も多く、日常保守活動の充実・強化を図ること。

過去の運転経験や技術情報の確実な継承

過去の運転経験やノウハウ等の情報共有、技術継承の取組みの強化が求められる。

- ( 3 ) 高経年化対策の客観性、透明性確保と情報共有化  
高経年プラントの劣化データの明示等による高経年化技術評価書の客観性、透明性の向上とともに関係機関での情報共有に努めること。
- ( 4 ) 原子力発電所に関わる企業システムの改善  
今後、協力企業への調達管理の改善や、再発防止の取組みが協力企業も含めた組織全体への浸透度等の観点から取組み状況の評価に努めること。
- ( 5 ) 包括的な保守点検計画の全体像の明示  
高経年化対策としての日常保守活動の強化項目も含め、包括的な保守点検計画の全体像をわかりやすく明示していくことに努めること。

< 福島第一原子力発電所 3号機高経年化対策取組状況の確認に係る主な経緯 >

- 平成18年 1月27日 事業者が当該機の高経年化技術評価及び長期保全計画を国に提出。
- 平成18年 2月16日 県、大熊、双葉両町で福島第一原子力発電所立入調査実施。
- 平成18年 3月13日 事業者が、当該機の高経年化技術評価等報告書の修正を国に提出。
- 平成18年 3月16日 国が当該機の高経年化技術評価等報告書の審査結果を公表。
- 平成18年 3月23日 国（原子力安全・保安院）より当該機の高経年化技術評価等報告書の審査結果について説明を受ける。
- 平成18年 3月24日 当該機の第2回定期安全レビューとりまとめ状況について、県、大熊、双葉町で事業者の説明を聴取。
- 平成18年 3月29日 事業者が当該機の第2回定期安全レビューの実施について公表。
- 平成18年 6月16日 県、大熊、双葉両町で福島第一原子力発電所立入調査実施。
- 平成18年 6月22日 県、大熊、双葉両町で当該機の定期検査実施状況等について事業者の説明を聴取。
- 平成18年 7月28日 東京電力(株)福島第一原子力発電所長に県民安全領域総括参事から、県の確認結果を伝えるとともに、高経年化対策の一層の充実強化を求める。